

科目名 (単位数)		対象年次	履修	期別	必要面接時数	レポート通数
日本史B (4)		原則2年次	必履修	通年	4	12
科目の概要		過去から現在にいたるまでの、我が国の歴史展開を、世界史的視野に立って考え、文化と伝統の特色についての認識を深める学習を行う。また、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての、自覚と資質を育む学習を行う。				
科目の目標		現代に生きている私たちが、現在をどのように生き、これからどう生きるか、そしてどのような考えで国際社会に主体的に関わっていくかを自覚する為に、これまで歩んできた過去に目を向け、その意味を問い続ける態度を育てる。				
	学習内容	到達目標	スクーリング <sup>g</sup> 回	レポート 回	試験 範囲	
年間指導計画・学習のねらい	原始社会の生活と文化	自然環境や大陸からの影響を念頭に、集落立地、食料獲得方法と食生活の変化などの社会の変化に着目する。	1	1 2	前期	
	律令国家の形成と文化	律令体制が確立する過程や、東アジア世界との交流に着目して仏教を基調とする文化、日本の風土や生活に適応した貴族文化などの特色を理解する。また、荘園・公領や武士の台頭など地方の動向について理解する。				
	武家社会の形成と文化	武士の土地支配と公武関係、東アジアとの関わりに着目して、武家政権の形成過程と、武家社会の成立や経済活動による新しい文化が広まったことを理解する。	2	3 4		
	近世社会の形成と文化	織豊政権及び幕藩体制の特色と推移、社会・文化の動向について、国際関係の変化と、その影響にも触れながら理解する。また、江戸期前期における産業が発達したことに伴う庶民文化の形成について考察する。	3	5 6		
	近代国家の形成と文化	開国・幕府滅亡と新政府樹立、明治維新から自由民権運動を経て、立憲体制が成立された推移を理解する。また、政府の近代化政策が交通や通信などのさまざまな分野で西洋化が生じたことを学習する。				
	大正・昭和期の日本	日清・日露戦争から第二次世界大戦にかけての日本の歴史について、当時の世界情勢と国内の動きを関連付けて考察する。	4	10 11		後期
	現代の世界と日本	第二次世界大戦の戦後において、国際社会への復帰から今日に至る日本の歴史を世界の動向と関連付けて考察する。同時に、広い視野から日本の文化や課題について認識する。				
評価方法	<p>年度末の成績評価は下記の通り行う。試験の得点は前期と後期の平均の35%、レポートは年間平均の50%、スクーリングの取り組み状況を15%とする。</p> <p>① レポート：教科書を活用し、計画的に取り組むこと。  ② スクーリング：年間計画に従い、各自で予習、復習を行うこと。  ③ 試験の得点：再試験の得点は定期試験の得点とは同等に扱わない。</p>					
単位の修得	<p>① レポート：12回（前期6回、後期6回）を締め切りまでに提出し、合格すること。  ② スクーリング：年間4回出席すること。  ③ 試験：前期試験・後期試験をそれぞれ受けること。</p>					
使用教科書等	教科書：『新選日本史B』（東京書籍）					

